

和歌山県感染症報告<速報>

Wakayama Infectious Diseases Report (WIDR)

2018年第23号(週報・月報合併号)

2018年第23週(6月4日~6月10日)、月報5月

◆◆注目すべき感染症の動向◆◆

— A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 —

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは、A群溶血性レンサ球菌による上気道感染症で、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴う細菌性の感染症です。

和歌山県全体の定点当たり患者報告数は、2.03人(前週:2.13人)と減少しましたが、過去5年間の同時期に比べかなり多い状況です。全国的に流行していますので注意してください。

保健所別では、和歌山市保健所管内が3.11人(前週:1.56人)と最も多く、次いで海南保健所管内が3.00人(前週:7.00人)となっています。

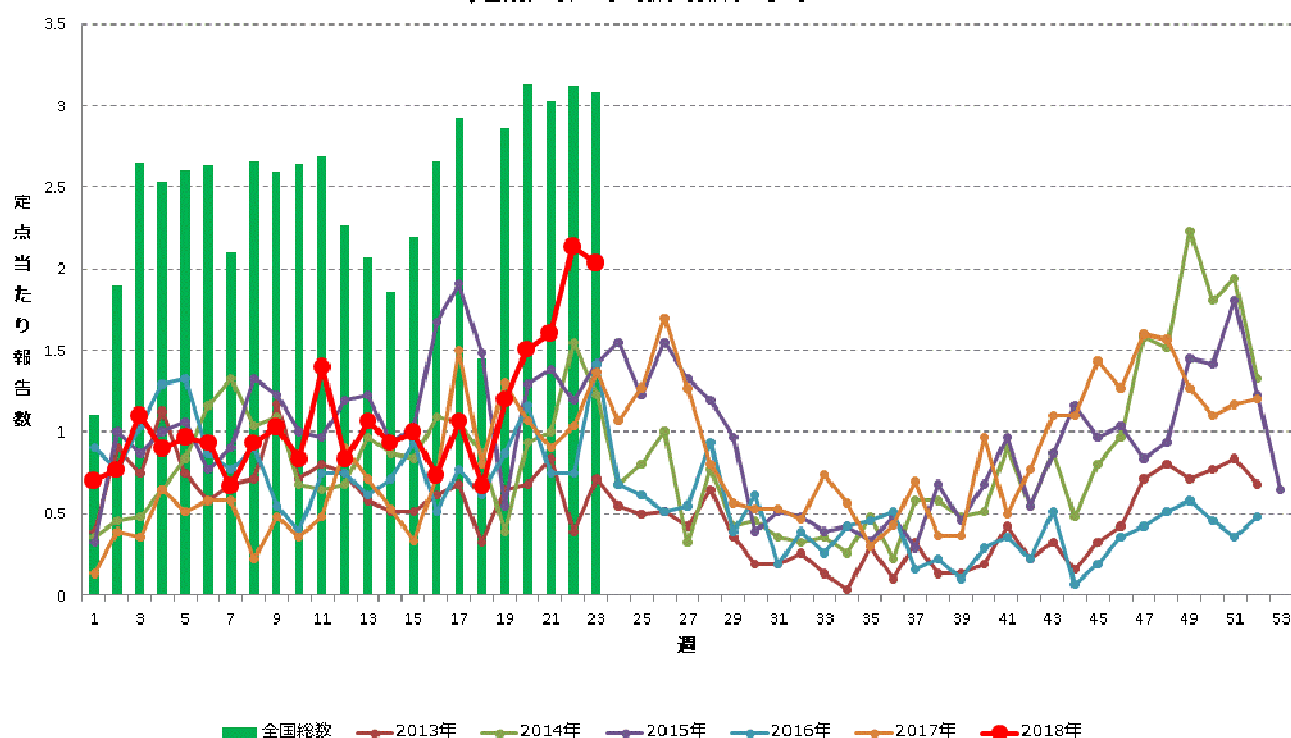
全国的には患者報告数は3.08人(前週:3.12人)と減少しています。

主な感染経路は飛沫感染と接触感染であることから、手洗い、うがいを徹底し、感染者とのタオルの共有は避ける等、予防に努めましょう。また、せきの症状がある場合はマスクを着用する等、せきエチケットを心がけてください。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に関する説明はこちら:(国立感染症研究所HP)

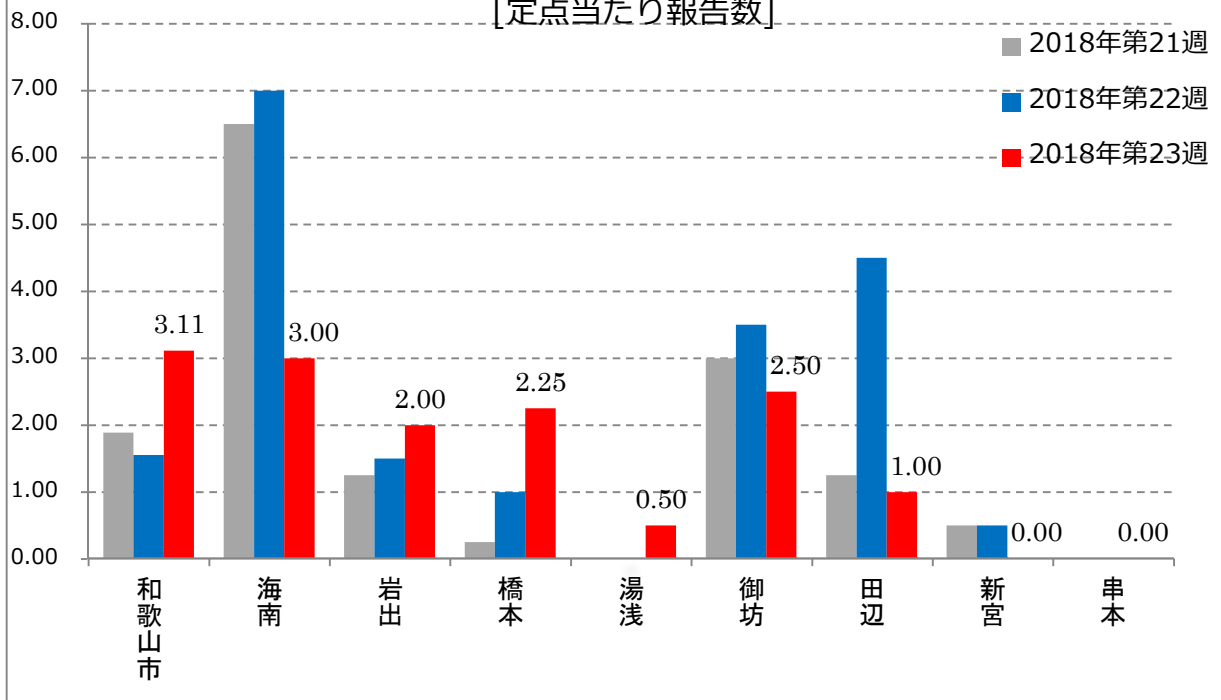
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/340-group-a-streptococcus-intro.html>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(和歌山県感染症情報センター)
定点当たり報告数グラフ



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎-管内集計区分別

[定点当たり報告数]



－咽頭結膜熱：御坊保健所管内で警報レベル継続！－

咽頭結膜熱は発熱、咽頭炎、眼症状を主とするアデノウイルスによる小児の急性ウイルス性感染症です。夏に流行し、プールでの感染も多く見られることからプール熱とも呼ばれています。

和歌山県全体の定点当たり患者報告数は、0.60人（前週：0.83人）と減少しましたが、過去5年間の同時期に比べやや多い状況です。

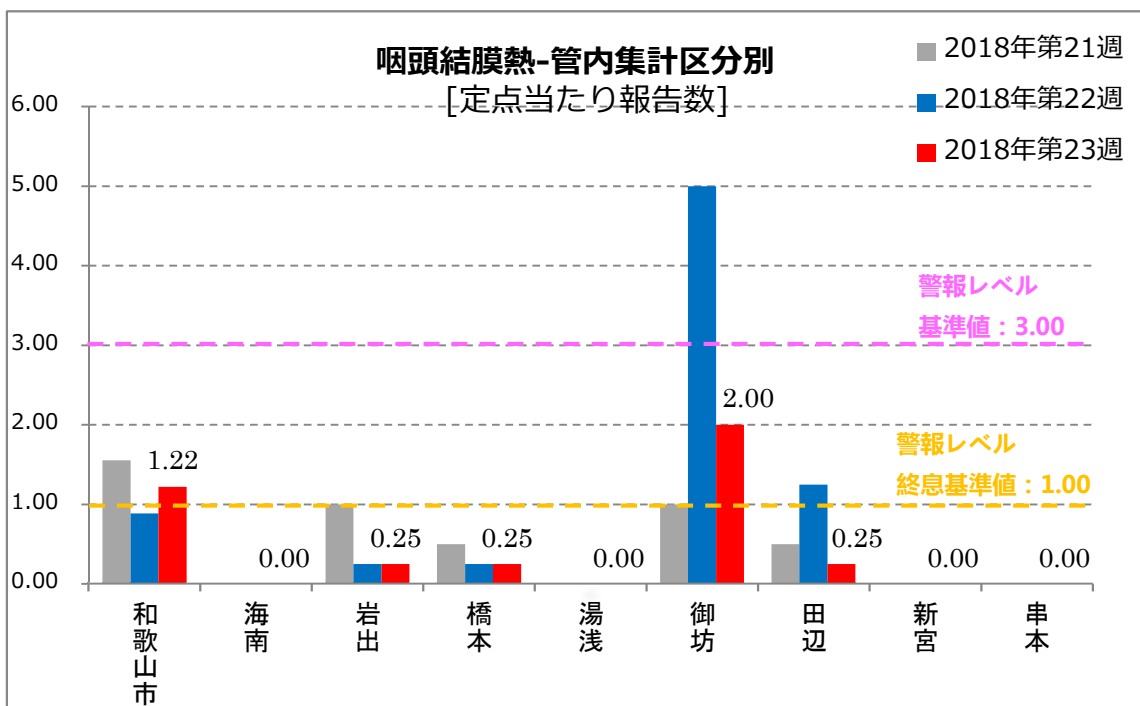
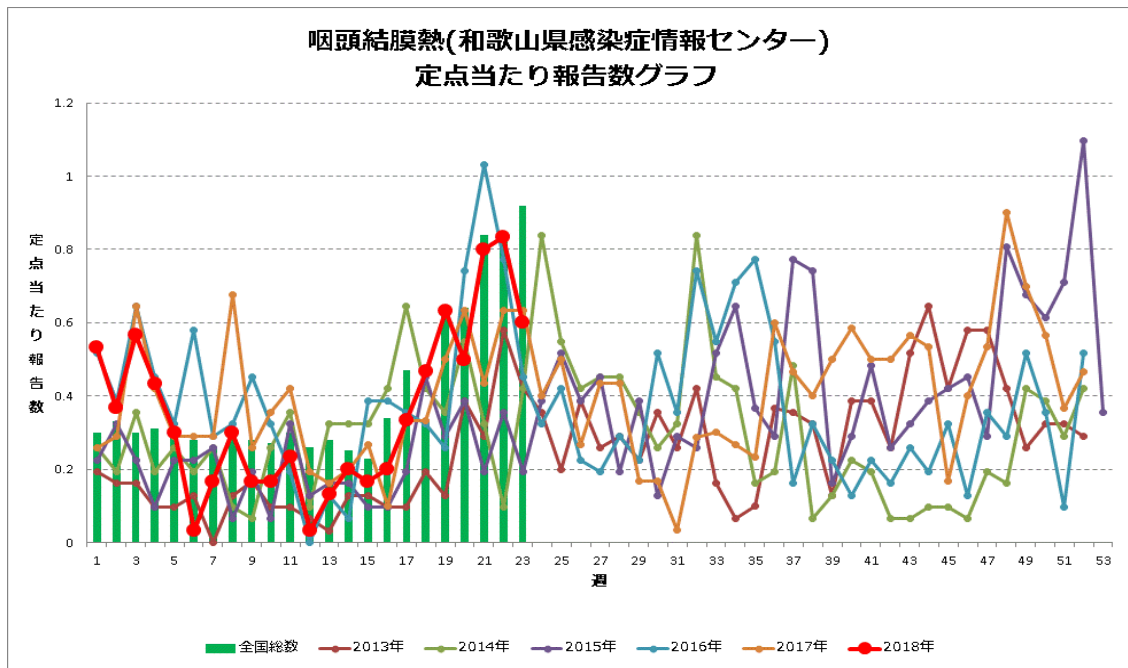
保健所別では、御坊保健所管内で2.00人（前週：5.00人）と減少しましたが、警報レベル終息基準値を上回っているため警報レベルが継続しています。

全国的には患者報告数は0.92人（前週：0.83人）と増加しています。

感染経路は、飛沫感染、あるいは手指を介した接触感染であることから、感染者のタオルの共用を避け、うがいや手洗いをしっかりとすることが大切です。

アデノウイルスに関する説明はこちら：(国立感染症研究所HP)

(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/2110-disease-based/a/adeno-pcf/idsc/4th/4325-adeno-virus-page.html>)



ヘルパンギーナ：新宮保健所管内で警報レベル！

ヘルパンギーナは、発熱と口腔内に水疱性発疹ができるウイルス感染症で、いわゆる夏かぜの代表的な疾患です。

和歌山県全体の定点当たり患者報告数は、1.10人（前週：0.53人）と増加し、過去5年間の同時期に比べやや多い状況です。

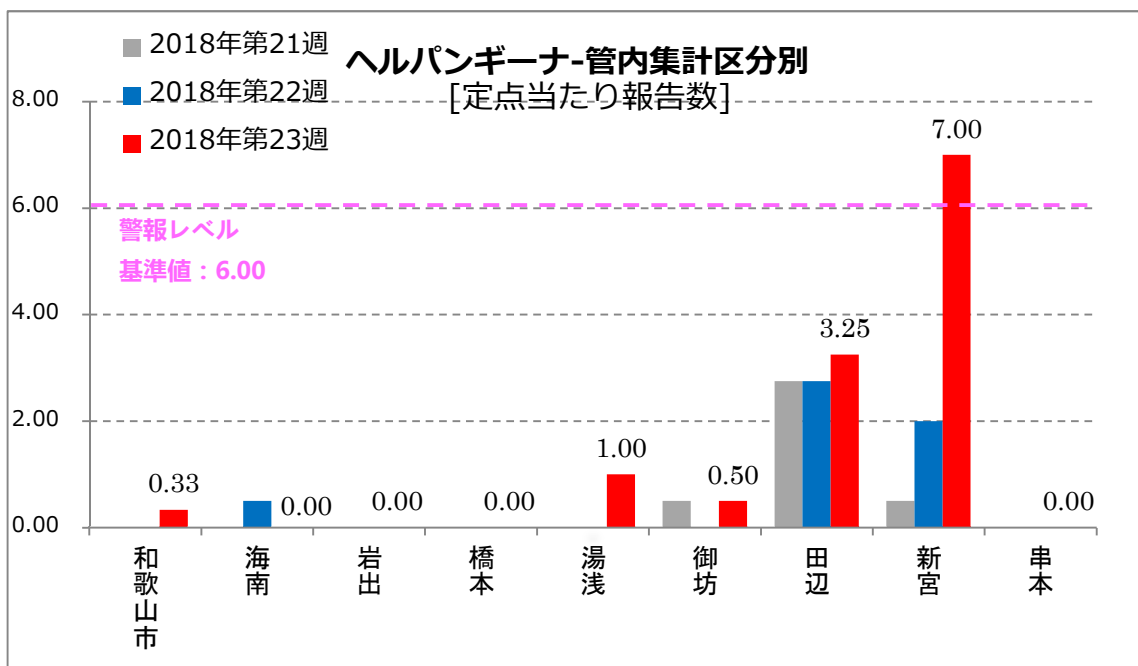
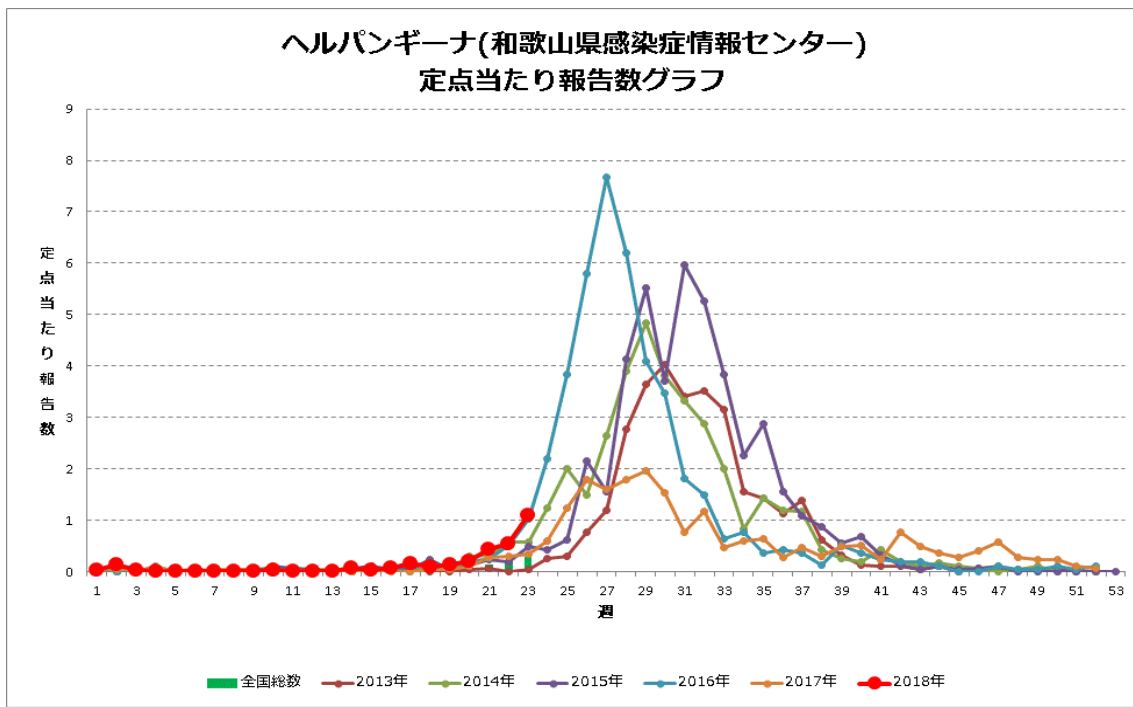
保健所別では新宮保健所管内が7.00人（前週：2.00人）と増加し、警報レベルとなっています。また、田辺保健所管内が3.25人（前週：2.75人）と増加しています。

全国の定点当たり患者報告数は0.28人（前週：0.18人）と増加しています。

この疾患の感染経路は、糞口感染、飛沫感染また接触感染であるため、感染者との密接な接触を避けることやうがい・手洗いの励行が感染予防対策となります。

ヘルパンギーナの詳しい説明はこちら：(国立感染症研究所HP)

<http://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/515-herpangina.html>



定点把握感染症の警報・注意報レベル基準値について

疾病	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	7	4	4
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
百日咳	1	0.1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

基準値はすべて定点当たりの報告数です。注意報の「-」は対象としないことを意味します。

◆◆ 全数把握感染症について ◆◆

<届出状況>

(1) 当該週に診断された感染症のみ掲載しています。

- 1 類感染症：報告はありませんでした。
- 2 類感染症：結核 3名
- 3 類感染症：報告はありませんでした。
- 4 類感染症：日本紅斑熱 1名、レジオネラ症 1名
- 5 類感染症：急性脳炎 1名、百日咳 3名

(2) 第1週から当該週までに診断された患者報告数を掲載しています。

疾病名	報告数
結核	79
腸管出血性大腸菌感染症	2
A型肝炎	3
重症熱性血小板減少症候群	2
つつが虫病	1
日本紅斑熱	9
レジオネラ症	8
アメーバ赤痢	1
カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2
急性脳炎	2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1
後天性免疫不全症候群	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1
侵襲性肺炎球菌感染症	8
梅毒	10
播種性クリプトコックス症	1
破傷風	1
百日咳	14

◆◆ 5類定点把握感染症(週報)について ◆◆

<各保健所の警報注意報レベル状況>

警報レベル

- 咽頭結膜熱（御坊保健所管内）
- ヘルパンギーナ（新宮保健所管内）
- 急性出血性結膜炎（田辺保健所管内）

注意報レベル

ありません。

<年齢階級層別の患者報告数（和歌山県）>

（インフルエンザ）

		総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～
インフルエンザ	報告	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	定当	0.04	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-

（小児科定点対象感染症）

		総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20歳～
RSウイルス感染症	報告	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	0.03	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	報告	18	-	-	4	5	2	2	2	1	1	-	1	-	-	-
	定当	0.6	-	-	0.13	0.17	0.07	0.07	0.07	0.03	0.03	-	0.03	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告	61	-	-	2	3	4	5	11	6	7	9	6	6	1	1
	定当	2.03	-	-	0.07	0.1	0.13	0.17	0.37	0.2	0.23	0.3	0.2	0.2	0.03	0.03
感染性胃腸炎	報告	151	-	5	27	26	18	23	9	8	7	2	4	16	1	5
	定当	5.03	-	0.17	0.9	0.87	0.6	0.77	0.3	0.27	0.23	0.07	0.13	0.53	0.03	0.17
水痘	報告	20	-	-	-	-	1	1	2	3	5	7	1	-	-	-
	定当	0.67	-	-	-	-	0.03	0.03	0.07	0.1	0.17	0.23	0.03	-	-	-
手足口病	報告	3	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	0.1	-	0.03	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	報告	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	定当	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.03	-	-	-
突発性発しん	報告	21	-	3	15	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
	定当	0.7	-	0.1	0.5	0.03	-	0.03	0.03	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	報告	33	-	1	5	5	9	8	3	1	1	-	-	-	-	-
	定当	1.1	-	0.03	0.17	0.17	0.3	0.27	0.1	0.03	0.03	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	報告	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-
	定当	0.13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.07	0.03	0.03	-	-

<保健所別の患者報告数（和歌山県）>

(-:患者報告がない、…:保健所管内に定点が存在しない)

		和歌山市	海南	岩出	橋本	湯浅	御坊	田辺	新宮	串本
インフルエンザ	報告	-	-	2	-	-	-	-	-	-
	定当	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	報告	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	定当	-	-	-	-	-	-	0.25	-	-
咽頭結膜熱	報告	11	-	1	1	-	4	1	-	-
	定当	1.22	-	0.25	0.25	-	2	0.25	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告	28	6	8	9	1	5	4	-	-
	定当	3.11	3	2	2.25	0.5	2.5	1	-	-
感染性胃腸炎	報告	81	24	24	4	-	7	5	6	-
	定当	9	12	6	1	-	3.5	1.25	3	-
水痘	報告	18	-	-	1	-	-	1	-	-
	定当	2	-	-	0.25	-	-	0.25	-	-
手足口病	報告	-	-	1	-	-	-	2	-	-
	定当	-	-	0.25	-	-	-	0.5	-	-
伝染性紅斑	報告	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	定当	-	-	-	-	-	0.5	-	-	-
突発性発しん	報告	13	3	-	-	2	-	3	-	-
	定当	1.44	1.5	-	-	1	-	0.75	-	-
ヘルパンギーナ	報告	3	-	-	-	2	1	13	14	-
	定当	0.33	-	-	-	1	0.5	3.25	7	-
流行性耳下腺炎	報告	2	-	-	-	2	-	-	-	-
	定当	0.22	-	-	-	1	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	報告	-	…	…	…	…	…	1	…	…
	定当	-	…	…	…	…	…	1	…	…
流行性角結膜炎	報告	1	…	…	…	…	…	-	…	…
	定当	0.33	…	…	…	…	…	-	…	…
細菌性髄膜炎	報告	-	…	-	-	-	-	-	-	…
	定当	-	…	-	-	-	-	-	-	…
無菌性髄膜炎	報告	-	…	-	-	-	-	-	-	…
	定当	-	…	-	-	-	-	-	-	…
マイコプラズマ肺炎	報告	-	…	-	-	-	-	2	-	…
	定当	-	…	-	-	-	-	1	-	…
クラミジア肺炎	報告	-	…	-	-	-	-	-	-	…
	定当	-	…	-	-	-	-	-	-	…
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告	-	…	-	-	-	-	1	-	…
	定当	-	…	-	-	-	-	0.5	-	…

<院内感染症の動向>

5月の定点当たり患者報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が2.64人(先月：1.55人)となっています。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症で患者報告数が最も多い年齢階級層は、70歳以上で全体の72%となっています。

【5月の年齢階級層別の患者報告数(和歌山県)】

		総数	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳～
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告	29	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	4	21
	定当	2.64	-	-	0.09	-	-	-	-	-	-	-	0.09	-	0.18	-	0.36	1.91
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	定当	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.18
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	定当	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.09

和歌山県感染症報告 (WIDR) 2018 年第 23 号

発行日：平成 30 年 6 月 14 日

発行元：和歌山県感染症情報センター

(和歌山県環境衛生研究センター内)

和歌山市砂山南 3-3-45

TEL 073-423-9570

E-mail e0318011@pref.wakayama.lg.jp

URL <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031801/kishukko>

(お問い合わせ先)

和歌山県福祉保健部健康局健康推進課

和歌山市小松原通一丁目1番地

TEL 073-441-2657

E-mail e0412003@pref.wakayama.lg.jp

この WIDR は感染症新法に基づいて実施されている感染症発生動向調査から作成しています。ここに掲載した情報はあくまでも速報であり、今後の調査結果で訂正される可能性がありますのでご注意ください。